

Job, Life

学生時代からの夢を追い続け、多彩な分野で活躍する卒業生を訪ね仕事に挑む熱い思い、今後の目標などをインタビュー。その姿が学生の皆さんの将来のキャリア・プランに役立てば幸いです。

DAIKIN

やま だ ゆう じ
山田 裕志さん

[2014年 理工学研究科
数理環境科学専攻修了]
ダイキン工業株式会社 堺製作所
空調生産本部 商品開発グループ



現在、北米商品開発グループで空調の室外機を担当 商品開発の全分野に挑みたい

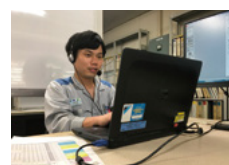
大学進学前から環境の分野に関心があり、大学進学にあたり、同志社大学理工学部環境システム学科を選びました。当時、地球温暖化をテーマにしたアメリカのドキュメンタリー映画『不都合な真実』が世界的に注目されるなど、環境保全への関心が特に高まっていたことも学科選択の契機になりました。当初は学部卒での就職を考えていたのですが、4年次生の時に実社会でのキャリア経験のある盛満正嗣教授の研究室で「新たな視点からより深く環境を捉える」ということの大切さを学び、さらに理工学研究科数理環境科学専攻で電気化学を探究することにしました。ダイキン工業を志望したのは、専門領域の中でも省エネ、消費電力の削減を中心に研究していたので、その延長線上で環境インフラ分野の仕事に就きたいと思っていたからです。「空気は最高のインフラ」であり、グローバル空調総合メーカーのダイキン工業は希望に最も近い企業でした。

2014年に入社し、配属は5月の時点で空調生産本部商品開発グループでしたが、1年目は研修のために各部署で様々な業務を経験しました。2年目から本格的に商品開発に携わり、現在は北

米向けの商品開発グループで空調の室外機の開発に取り組んでいます。例えば、世界の別地域で高評価の商品を北米市場とマッチングさせるには何をどのように変更、刷新するかといった課題を、マーケティング部門や営業から提示される基本資料を踏まえながら検討します。具体的には構造、性能、信頼性制御の3方向から熟考し、試行を繰り返しながら一つずつクリアしていくわけです。私が担当しているのは信頼性面です。自分の検討・計算結果の目論見通りの試験結果を得た時は、大きなやりがいを感じます。

仕事をする上で最も大切にしているのは、商品開発のプロセスの中で様々な指摘がありますが、「最後には自分の意志を結実させる」ことです。これを厳守することによって職責を全うすることができると考えているからです。また、限られた期間の中で異なる数多くの意向を汲み取り、最上の着地点を見出すのも非常に難しいのですが、常に全力を注ぎ、ベストを追求しています。直近の目標は30歳までに、商品開発でまだ手掛けない構造、性能の分野も担えるようになることです。それができれば、次のステップに踏み出せると思っています。

One day on the job



08:30

アメリカと電話会議。文化や考え方が異なる為、メールだけでなく電話で情報を正確に共有する必要があります。



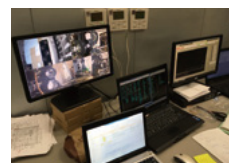
10:00

現地現物確認。図面だけでなく、実際のモノを自分の目で見ることを心がけています。



11:00

打合せ。自分の検討・目論見結果について説明し、試験内容を整理します。



14:00

試験中。理論だけでなく、実際のような試験結果になっているのかいち早く情報を入手する為、試験室に行くこともあります。



16:00

再検討。理論に基づいた検討と試験結果の差異について原因分析し、改善案を考えます。